

小学校教育目標

『自立』

- ・よく考え やりとげる子
- ・思いやりがあり
助け合う子
- ・明るく たくましい子



青ヶ島小中学校
公式キャラクター
「アモリン」

AOGASHIMA

学校だより

令和7年度文部科学省指定授業時数特例校

令和7年度 第8号 令和7年 12月 15日

青ヶ島小中学校HP <https://aogashima.ed.jp>



中学校教育目標

『自立』

- ・自ら考え、工夫し、
進んで学びつづける生徒
- ・心豊かで、互いに
尊重し合える生徒
- ・心身ともに健康で、
たくましく生きる生徒

言葉の奥にある思いを育てる

中学校副校長

先日、あるテレビ番組でAI（大規模言語モデル）について、「入力された単語の次に続く単語を確率で予測する仕組みに過ぎない」と解説されていました。AIは人間の感情や意図を持っているわけではないのに、まるで思考しているかのように流暢な言葉を生成します。一方で私たち人間は、強い「意図」や「感情」をもって言葉を使います。特に子どもに対しては、「あなたのために」「正しく成長してほしい」という願いが言葉の根底にあります。

本校では現在、「デジタルを活用したこれからの学び」を推進する中で、教員が一方向的に説明する「講義型」の授業を減らし、生徒が主体的に学ぶ授業への転換を図っています。これは、AIの言語生成の仕組みと、私たちが日々感じる「言葉で伝えることの難しさ」に深く通じるものがあります。

私たち大人は、相手を思うほど多くの言葉を伝えたくくなります。教員が熱心に講義するように。しかし、その言葉がAIのようにただ通過するだけで、子どもの心に届かないとしたらどうでしょう。さらに、大人の「正論」や「期待」が無意識のうちにプレッシャーとなり、子どもが心を閉ざす原因になることもあります。「どうせ言っても分かってもらえない」と、自分の気持ちを表現すること自体を諦めてしまうのです。

授業が「教員が説明する」から「生徒が自ら学ぶ」へと変化しているように、家庭や地域での対話も、大人が言葉を「伝える」こと以上に、子どもが自分の言葉を「見つける」ことを支え、「待つ」姿勢が大切なのかもしれません。

私たちは言葉の表面だけで評価せず、その奥にある「意図」や「背景」を想像し、対話を重ねていく。そうした関係性の中でこそ、子どもたちは安心して自分を表現し、健やかな心を育てていくことができるのではないのでしょうか。AIの言葉が確率によって生まれるものであるならば、私たちの言葉は「思い」から生まれるものです。その違いを意識しながら、子どもたちとの言葉のやりとりを、これからも丁寧に紡いでいきたいと思います。

12月の生活指導について

生活指導主任

今年も残りわずかとなりました。2学期の終わりに向けて、これまでの生活を振り返って行動できるよう指導をしています。終業式には夏休み同様に、3つの約束「自分の命は自分で守ること」「規則正しい生活をする」「計画を立てること」を伝える予定です。安全で充実した冬休みを過ごせるよう、ご家庭でもお声掛けをお願いいたします。1月8日の始業式に元気な姿で会えることを楽しみにしています。

各目標	《小学校》	《中学校》
生活目標	2学期の生活を振り返って行動しよう	・2学期の生活を振り返り、冬休みの行動計画を立てる ・環境美化に努める
保健目標	冬を健康に過ごす	
給食目標	寒さに負けない体をつくろう	バランスのとれた食事について考える

12月の行事予定

16	火	読み聞かせ(小) 相談タイム(中)
17	水	小朝会 B時程 クラブ(小) 栄養指導(小)
18	木	中朝会 中1のみ6時間授業 農園清掃
19	金	体育館清掃
22	月	大掃除⑤
23	火	相談タイム(中)
24	水	小朝会 B時程 給食終 保健指導(小)
25	木	終業式 放課後開放無
26	金	冬季休業日始
29	月	学校閉庁期間始

1月の行事予定

3	土	学校閉庁期間終
7	水	冬季休業日終
8	木	始業式 放課後開放無 教育相談始
9	金	給食始 安全指導 席書会③ 身体計測(小) 雪山体験教室保護者説明会(小5) くろしお会
12	月	《成人の日》
13	火	くろしお朝会 教育相談週間始 身体計測(中) 相談タイム(中)
14	水	B時程 避難訓練 マラソン大会前健診 教育相談週間終 小朝会
15	木	中朝会 開校記念日 学校公開始 マラソン記録会 書き初め展始

校内研究

10月31日と11月5日に研究授業を実施し、授業の改善に取り組みました。また、11月5日には、東京都教職員研修センターより中村 里津也様をお招きし、最新の教育トピックについて講演をいただきました。これからもより良い授業のために、たゆまず研究に取り組んで参ります。



くろしお会の活動

11月25日にくろしお会が中心となって企画をした「地域清掃」を行いました。

島に住んでいるみんなが気持ちよく生活できるようにしたい。そんな願いをもって取り組んだ活動はとても良い活動になったと思います。

これからも、自分たちにできることを中心になって活動していったほうがいいです。



のうえん青々島

10月31日(木)に山形県より学校給食のお米を提供してくださっている高橋勝さんと手柴充雅さんに来ていただき、稲の脱穀体験学習を行いました。今年度、育てた稲は台風の被害に遭い、ガラスの混入の可能性があったため、脱穀したお米を食べることはできませんでしたが、講師の先生からは、人間が食べられないお米をどのように活用するのかという課題が出されました。また、機械の動かし方を丁寧に教えていただきながら、脱穀機を使って一人ずつ体験することができました。

昔は手作業で行っていたということも教えていただき、機械で取り切れなかったものは手作業で一粒一粒取りました。

